

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	オープン時にスタッフ全員で作上げた理念があり、それを常に意識している。	オープン後に入社したスタッフとも意見を共有しあい、事業所としての理念の意味を広義でとらえていけるようにしていきたい。その為に個々に理念の意味を理解していく必要がある。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を自分の中で素直にとらえられる自分作りを日々心掛けており、また管理者とも常日頃よりホームの進むべき方向や、ケアの原点など確認しあいながら取り組んでいる。	今後とも常に入居者を中心とした視点でいられるような自分のあり方を見つめ続けていく。また入居者と共に生活をするという姿勢を崩すことなく追求していく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族には、家族会や面会時、電話連絡で自分達の取り組みやあり方を伝え、地域の人々には、日頃からの挨拶や近所付き合い、運営推進会議等を利用し、取り組みを理解して頂けるように積極的に機会を設けている。	今後も行事の通知の配布をしたり地域に根付いた活動を続けていく必要がある。また、理念を理解していただいた上で家族や地域の人々と共に支えあい、より良いホームにしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	外出、散歩、買い物時には挨拶は先にする、という意識を持ち、お互いに存在を認め合えるような関係作りに邁進している。	まだまだホームを活用していただく場面が少なく、こちらからの協力要請に手を貸して頂いている状態なので、気軽に立ち寄れるような雰囲気作りやホームとしての機能を活かして行きたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に所属し年中行事等に参加している。	運営推進会議等に自治会長や地区の民生委員に参加して頂いたり、家族会で地域の方による大正琴の演奏会など鑑賞等を含め、協力して頂いている。また、近隣の子供達がシロ(犬)に会いに来たり、トイレを借りに来るなど、地域の中に存在している意味を感じられる。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ホームの代表は、地域の中で認知症に関係する講義等を行い、理解を広めようと貢献している。	職員は代表が不在のときでも入居者が安心して暮らせる為の現場を守るという後方支援に留まっているが、今後もサポートしていく事が自分としての地域に還元する事だと感じている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己の改善点を自己評価を取り組む事でグループホームに求められている事や、必要な事を改めて理解できる。</p>	<p>自分を見つめなおす機会として、評価される事を目的とせず改善点に関しては全体で話しあえる機会として有効に利用したい。</p>
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>家族会や避難訓練に委員を招き、ホームの活動を実際に体験し、その中で意見交換を行なっている。</p>	<p>会議という形ではなく、ホームの活動に参加という形なので、スタッフがより身近にホーム運営などを知る機会が増える。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>会社として、担当者が窓口となり市町村担当者との日常的なやり取りがあるという報告を受けている。自身としては関わる機会を積極的に設けていない。</p>	<p>私用で市役所等に出向く際には、ホームの一員という自覚の元に挨拶等をこちらからするようにし、関係を築いていく。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要となる制度や法律についてなどを、個別若しくは全体を通し理解できるようになっている。</p>	<p>必要となったときだけでは無く、正しい知識を自ら身に付けるように意識し、学んでいきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>管理者、職員は、ケアを通じて話し合い、虐待の定義、範囲、種類等を正しく理解して防止につとめている。</p>	<p>ホーム全体として意識が高く感じられ、虐待とらえるような行動自体感じた事が無い。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>ホームとしては適切に行なっているが、個人としては、契約の部分は不明な部分が多い。</p>	<p>契約書等を再度確認し、入居者及びその家族にも安心して頂けるように学んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者からの不満や不安等を言葉では伝えられない部分も汲み上げ、それをすぐにスタッフ間で話し合える環境作りを行なっている。		苦情や不満、意見を伝えて下さる自分作り、また解決に向けてすぐに取り組めるチーム作りを今後も継続して行なっていきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時や、ホーム便りを利用し、現在の状況等を伝えている。また通院時や、体調不良時には電話連絡にて報告をしている。		従来通りの報告に加え、その日の出来事や、楽しかった事等を伝えていけるようにしたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時には、意見、不満、苦情等の受付先を説明、外部の相談機関の連絡方法を伝え、また日常的に職員に話しの出来る環境にある。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者を中心とし、全体が今よりも良いホームという目標に向かっていて代表もその方向に進みやすいよう配慮している。また管理者は日頃より相談しやすく、それを代表に伝えている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況、状態に合わせた時間配分を、必要に応じ時間帯を変更している。		職員の人数の確保が難しく、超過勤務になる事も多く不安はあるが、職員同士協力し合い支援にあたっている。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニット間での協力体制が適切で、どちらのユニットでもスムーズにケアにあたれるように常日頃から全体の状態を把握している。		不安を抱えないよう入居者に対して移動とは言わず、手伝っている等の表現で伝えるように心掛けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個人的な事情にも左右されるが、ホームとしては外部の研修やホーム内での研修に参加しやすい環境ではあると思う。		知識、技術は自ら高める努力が必要だと感じる。また、現場での実践により、日々感性を高める努力をしている。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	3市3町村による広域連絡会を作成し、勉強会、交流会等を行なっている。自身はまだ参加していない。		自分達の行動が全てではなく、他ホームでの取り組みが自分達のケアにつながる事も多々あると思い、機会があるのならばぜひ参加したいと考えている。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日常的に相談できる環境管理者及び代表が、スーパーアドバイザーとして取り組んでいる。		代表や管理者の変わる事の無い信念が後押しをしてくれるので、不安が解消される場面が多い。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	入居者ひとりひとりから教えていただくという意識と、それにチーム全員でどう取り組んでいくかという部分があり、全員が今よりもより生き生きとした生活を過ごして頂きたいというぶれる事のない目標があり、それが各自の向上心に繋がっていると感じる。また代表及び管理者はスタッフの状況を把握してられ、その為に必要な助言やアドバイスを日常的に頂いてると感じる。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。	業務や時間に追われる事のない穏やかでゆったりとした環境の中で1人1人と向き合う時間を極力多く作り、ケアにあたるように努めている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。	いつでも気軽にスタッフに話の出来る環境にある。		家族のケアも念頭に置き、より良い生活の場にしていこうという一体感を今以上に持てるように互いに協力し合える関係性を築いていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者及びその家族が、そのときに必要としている支援を見極め適したサービス利用を検討している。		地域にあるホームとして有効に活用する事は入居だけではないと考える。地域の人気軽に相談でき、その中で入居という選択肢以外の方法がその人にとって最良ならばその支援を含めて検討していく。また入居された際には医療、ケア、社会資源等、必要に応じて様々なサービスが受けられるように情報を提供したり、相談に応じる姿勢でいる。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前より家族や入居者と面談やホームの見学を通して、ホームの特性を理解して頂いていると感じる。また家族の希望も含め適切な説明をし、互いに良い関係を作っていけるよう話しあっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に生活をするというスタンスを持ち、お互い協力し合える環境、関係を築いている。		入居者の支援が必要な場面が増えてきて、自働的の活動の場面は減少しているが、お互いの存在がよい刺激となれるように、生活という事の中で理解し、互いの存在を理解し合えるように心掛けている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が支える事の重要性を理解した上で、ホームの力だけでなく家族との関係があっこそホーム運営だと考えより良い関係を築いている。		全職員が家族会の時はもちろんの事、日頃より協力し合える関係性をこれからも築いていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者との会話、家族とのやりとり、ライフヒストリーなどを踏まえた上で適度に距離をおいてその関係を支援していきたい。		日頃から家族と相談等しながらより良い関係の理解に努めていきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れぬよう、支援に努めている。	本人の体調や気分で行けない入居者が多いが、家族と相談しながら支援していきたい。		家族と協力、相談しながら関係が途切れぬよう話しあっていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係、状況や感情を見極めた上で一方的に介入するのではなく、その人の行動を尊重するように努めている。		積極的に介入しなくてはならない場面等の見極めが難しく思う事もあるが、そこに住まう人同士のコミュニティーを今後も支援していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も家族会に参加して頂いたり、亡くなられた方の葬儀に参列させて頂いたりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	時間や体制に追われることなく個々に関われる部分や全体を通してのバランスを入居者主体でこれからも考え、言語だけではなく、非言語的な意思の疎通も踏まえた上で、入居者自身がどうしたいのかを常に話し合い、実践している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	独自のライフヒストリー、本人や家族との会話や行動より把握するように努めている。		今後も活用していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々細部にわたりアセスメントを行ない、表情や言動、バイタルなどを踏まえた上で周囲のスタッフとも連携を図りながらケアにあたっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の毎日の体調や行動を把握しユニット会議等で本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方、介護計画の見直しや家族の要望等を踏まえケアプランを作成している。		アセスメントや家族の意向を伝える等、参考意見となるような事を積極的に伝えるように心掛けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	スタッフ会議にケアプランの見直しを図り、アセスメントや家族の意向を伝える等、参考意見となるような事を積極的に伝えるよう個人個人心掛け、随時家族や本人を含めて現状を伝え、反映させている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	独自のアセスメントシートを作成し、それに記載し、常にスタッフが情報を共有できるように一冊のファイルに閉じ、ケアにもケアプランにも反映している。		今後も細かいアセスメントをして、さらに日々のケアに反映していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	時間の縛りがない分自由に動けるので、柔軟に動く事が出来る。		本人や家族の希望をより具体的に把握した上で、ケアにあたるように努力する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアによる大正琴や等の受け入れや、避難訓練等の協力を得ている。		ホーム主体ではなく入居者主体となる社会資源の活用方法をスタッフ間で協議しながら支援していきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ホームとしては関係を築いている。		必要に応じて、関わりを持てる様にしたいと思うが、必要性を今現在感じてはいない。スタッフ間で相談しながら他職種とも連携を図れるようになる。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	ホームとしては関係を築いている。		運営推進会議にセンターの職員を招いたり必要に応じて、関わりを持てるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者をよく知るDrを確保しており、細かい部分まで相談が出来る関係である。また、往診等にも対応していただける為、ホーム内での生活を直に見て頂く事ができる。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	ホームの活動を理解し、個々にあった指示、助言をしていただけるDrを確保している。また今の関係を今後も維持していくとともに、信頼できる医療機関の確保に努めていきたい。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護ステーションと契約をし、24時間体制の対応をしている。また医療的な知識を高めるとともに、訪問看護ステーションに連絡、相談し、入居者の健康管理に努めている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院による心理的ダメージへの配慮と主治医、家族との情報交換、相談を行うと共に、退院に向けてのホーム側の受け入れ態勢などをスタッフ間で話し合い、早期退院に向けての準備をしている。		入院時のお見舞いや、家族へのフォローなど、入院しているときに出来る事を今までどおり継続して行なっていく。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	契約時家族に終末期のケアについて説明を行い、どうゆう終末期の過ごし方が望ましいかを早期に相談し、その人にとって望ましい最後を迎えられるようにしている。		家族を含め本人が穏やかに過ごせるよう支援していきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけの医師と密接な関係を持ち、出来ること出来ないことを見極め家族ともに支援している。		自らも医療的な知識を身に付けると共に、その方にとって望ましい終末期を自分自身で常に問いつづけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居の際に伴うダメージを理解した上で本人、家族とも話し、最小限に抑える努力をチームとして行ない退居後にはお見舞いに出向いたり、関係のつながりを完全に切ることを行わないようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	本人が思っている、感じている現実を否定せず適切な声掛けをしている。また記録等の管理も徹底している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の伝えたい事、思いを日常生活の中で汲み取り、こちらからも感情が発揮できる場面作りを行なっている。また意思、思いを上手く伝えられない入居者にはスタッフ同士で話し合い、入居者が自分で選択し納得しながら過ごせるよう支援していきたい。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	時間の縛りは無いが、人数的に余裕の無いときもある。その中でも生活を共にする事を考え優先的に必要な部分を判断し、不満はあるが不自由の無い暮らしとなるように支援をしている。		お互いの協力があってこそその生活の場という意識の中で、折り合いのつく方法を入居者と話し合い、自己決定の選択肢を増やすように心掛けている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	基本的には行きつけの美容室等を利用している。また、体調等に不安がある方に対しては出張理容を利用している。		身だしなみは個性の一部と理解し、入居者と本人らしいスタイルを確立できるように日々検討中である。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の力に応じ、互いに協力し合いながら調理、片付けなどしている。また、利用者の状態、気分を考慮し席を動かしたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	全員が同じ物ではなく、好みに応じ柔軟に対応している。		料理のレパトリーをスタッフや入居者に教えていただきながら増やしていきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個人の能力に応じ、極力トイレでの排泄が出来るように配慮している。また、日常的にアセスメントを行なう事で、排泄間隔や、排泄のサインを見逃さず、失敗の無い日々を心掛けている。		失敗したときも着心に配慮をした声掛けや、速やかに清拭、入浴など、精神的、肉体的不安に対してのケアを行なっている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	体調を考慮し、随時入浴が出来る体勢をとっている。		無理強いすることなく入浴したくなるような声掛けや、この人だったら入浴してもいいと思ってもらえるような自分作りをしていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝前までの本人の活動の大切さを理解し、心地よい眠りにつけるようにしている。睡眠だけを切り取らず、生活リズムを意識してケアにあたっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	その人の持ちうる能力を活かし、出来る事や出来ない事、やりたくない事、嫌々でもやる事など、持ち味を出して生活を送る事が出来るように支援している。		その人の可能性を閉じることなく活き活きと生活できるように今後も支援していく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自身に置き換え、手元にお金の無い事の不安を理解し、本人の能力に配慮し、持つことが可能であるならば手元に現金を持って頂いている。		お金を使う場面が少なく、場面の提供を含め検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の体調、気分を考慮し散歩やドライブなど外の空気に触れ季節を感じられる場面を状況に応じ演出している。		本人の希望に添えない事もあるが、一度の外出が本人にとって心地よく感じていただけるように支援していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族と相談し、ひとりひとりが行きたい場所、特別な外出(墓参り、法事等)に積極的に行く事ができるよう検討している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族と相談し、個々に応じやり取りが出来るように支援している。		人を感じる事の喜びを理解し、積極的に支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の設定も無く、誰でも自由に合う事が出来るようになっている。また、その時間が入居者、家族にとって有意義になるようさりげない気配り目配りしながら場面を演出している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	フィジカルロックのみならず、スピーチロック、ドラッグロックの定義を身に付け、抑制、拘束を行なう必要の無い事を実践している。		オープン時よりホームの考え方は一貫して変わっておらず、自身も拘束を必要とする場面に遭遇した事は無い。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間の施錠は外からの浸入を防ぐためのものと認識で行っているが日中は施錠は行わず自由に外出できる。また職員が利用者の行動、所在を把握し支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフ間での情報共有、所在の把握、自然な形での見守りでケアにあたっている。		予測できる危険を職員同士話し、意識を常に持ち注意しなければならない時間など確認している。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ひとりひとりの状態に応じてそこにあるべきものをなくすのではなく、その危険性を事前に理解する事で不用意に物の無い状態を防いでいる。		日頃より、物品の位置や危険性の感じるものの確認などを行っている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ひとりひとりの行動、状態を把握し事故はあるものと常に意識をもち変化を見逃さないよう取り組んでいる。またヒヤリハットや事故報告書に目を通し、そのとき怒った事に対してスタッフ間で協議し、対応している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	各ユニットにマニュアルが用意してあり救命講習や、緊急時マニュアルを把握する事で、急変時や不測の事態に対応できる心構えで要る。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練等の取り組みの他、日常的に避難経路の確認、避難場所を確認している。		近隣の方の協力が得られるように、自分に出来る事(挨拶等)をしっかり行なっていく。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	防ぐことのできるリスクは未然に解消出来るよう常に目配りをしていきたい。また日常起こり得るリスクについては家族にしっかり説明し同意を得た状態で、様々な可能性を追求している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	昼夜問わず容態を観察し自分だけの判断ではなく小さな異変でも看護職員をはじめとするスタッフに相談し、悪化を未然に防ぐようにしている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋をアセスメントシート類と一緒にファイルに閉じる事によって、随時服薬内容や薬の作用、副作用を見る事が出来る。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	日頃の便の間隔、利用者の容態の変化を見逃さず食事のバランス、運動、水分と服薬以外で可能な限り自然排便に繋がるように個人の特徴を把握し、行なっている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	ひとりひとりに応じたケアを支援している。また口腔ケアを行うことで、健康管理に繋がるという事を理解している。		本人の体調、気分を考慮しながら毎食後というわけではないので、可能な限り取り入れていきたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取量は一日1300ccを基本としている。また水分摂取の好まない利用者には、小分けにしたり盛り付け方を工夫したりしている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを各ユニットに設置され職員が常に確認できるようにして、熟読している。		うがい、手洗いを徹底し、外出時にはマスクをするなど外部からの感染の予防を行なっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	食材の早期使用、賞味期限の確認、調理器具等の除菌に心掛けている。		加熱処理を基本とした調理を行なっているが、旬の食材等の使用もあり毎食必ず検食を行ない、安全面に配慮している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	季節にあった花や鉢植え、玄関先にはベンチを設置。また庭先にはアウル(犬)もあり、近隣の方のマスコットの存在となっている。		全体的には木の造りとなっており、温かみを感じる。また自身としては玄関周りの美化にも今後力を入れていきたい。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居者の笑顔の写真や昔なじみの品等を置いたり、木の造りの中で、暖かい温もりを感じられ、一日が穏やかな雰囲気の中生活ができるように支援している。		その時代に在った物を置く事で刺激を与える働きに繋がっている。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	入居者同士の関わりを尊重し思い思いに過ごせるような場面作りの配慮をしている。またリビングから死角のスペースを作る事によって、自分を出せる場や、思いを共有する場として活用されている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	本人が使っていたもの、安心できるものなど自由に持ってきて頂き、居心地よく過ごせる事が出来るよう工夫し、住み替えによるダメージの軽減や新しい環境への早期適応にも繋がっている。		自分の家ではないが、ここもいいところだと思っていただけるように配慮している。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	空気清浄機の設置や、加室用にぬれたタオルを設置する事で、常時湿度を60%程度に保つようにしている。		入居者を含め、加室タオルの設置等に協力し合いやっている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>バリアフリーだけが全てではなく、階段、トイレ、廊下等の手すり、調理などで生活全般がリハビリに繋がるという意識を常に持ち、体調管理に繋がっている。</p>		<p>死角となるスペースや、段差などが不自由に感じる方に対してはスタッフ自身がつく事により解消している。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>現在の持っている理解度を把握した上で、時間や空間、人物などに対しての混乱をそのときだけではなく、その後のフォローも含め継続的にサポートするように心掛けている。</p>		<p>建物の構造による混乱は必然の物としてとらえ、その後のフォローをどうするかという事をスタッフ間で協議している。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の中からテラスに出られる造りとなっており、暖かい日は日光浴や利用者同士でのお茶会など家庭菜園やアウル(犬)とのふれあいの場にもなっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				
項目		取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない		
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない		
98	職員は、生き生きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない		
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない		
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

自分の持っている力を使う事がその人の生きることだと思っている。私はその力を引き出すためにここに存在しているのであり、そこには介護者と入居者という線引きは必要ない。個人と個人との響きによりそこには無数の可能性が秘められている事を自分自身が楽しむ事により、互いに強い結びつきを生む事だと思う。行動ではなくその人それぞれの思いを大切にしていき、支えあい、人としての感情の表出ができる事が自慢できることだと思います。